トヨタユナイテッド静岡、キャンプ事業参入　富士宮市で

#静岡 #東京 #神奈川

2023/3/6 20:00 [有料会員限定]

キャンプ場からは富士山を一望できる（完成イメージ）

静岡鉄道の子会社、トヨタユナイテッド静岡（静岡市）はキャンプ場の運営事業に参入する。静岡県富士宮市北部の朝霧高原に7月にもオープンする計画だ。主力の自動車販売事業の顧客への優待サービスも検討し、車を使い旅行や体験を楽しむ「コト消費」を提案する。県内外から誘客し、新型コロナウイルスの影響で増す屋外レジャーの需要を取り込む。

新東名高速道路の新富士インターチェンジ（IC）や中央自動車道の河口湖ICから車で約40分の約14ヘクタールの土地に、およそ6億円を投じてキャンプ場を整備している。静岡県内だけでなく、関東方面からのアクセスの良さも生かし、100組以上の収容戸数を想定する。

静岡県富士宮市でキャンプ場の建設が進む

同社の計画ではキャンプエリア全面を芝にし、車やテントの配置スペースを設ける。トイレなどのある管理棟は「富士山の景観を妨げないシックなデザイン」を採用し、眺望を意識した角度で建設し1、2階には大型の窓も設ける。給湯器や温水洗浄便座なども利用できるようにする。予約は4月から受け付ける予定だ。

トヨタユナイテッド静岡は21年4月、静岡鉄道グループのトヨタ車販売店3社が合併して設立された。静岡県内に60以上の店舗があり、2022年3月期の売上高は約600億円。キャンプ事業は初年度に7400万円、5年後には1億1300万円の売り上げを目標にする。

キャンプ場の事業に参入した背景について、同社は「自動車の販売だけで終わるのではなく、購入後のコト消費につなげ顧客に提供する付加価値を高めるため」（担当者）と説明する。同社の店舗で自動車購入や定期点検で入庫などをした顧客への特典も検討し、収益の多角化を図る。

新型コロナの感染拡大を契機に、屋外で感染の懸念が少ないキャンプなどへの需要が高まった。東京都など首都圏からも近く、富士山の眺望を楽しめる富士宮市で年間を通じて客を呼び込む。

3月にかけては静岡空港（静岡県牧之原市）の国際線でも韓国・ソウルとの間などでチャーター便、定期便が順次再開する。「インバウンド（訪日外国人）の需要も見込めるため静岡空港からキャンプ用品付きレンタカーでの集客も考えたい」（担当者）。農家と連携し、地場の農作物を取り寄せることができるプランも検討するという。